

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホーム ゆうかり
訪問調査日	平成22年3月1日
評価確定日	平成22年3月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホーム ゆうかり
所在地	鹿児島市吉野町5400-1 (電 話) 099-244-5481
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年3月1日

【情報提供票より】(平成22年2月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしの相良外科 吉元歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の高台に、同一法人の医療機関と隣接して建てられたホームである。食堂ホールは陽当たりが良く、開放感のある空間となっている。天気の良い日はウッドデッキにテーブルを出し、利用者と職員が食事やお茶を楽しんでいる。開設以来続けている地域交流会は、近隣の住民も参加して、餅つきやしめ縄づくり、介護相談会などが行われている。運営面における法人内の協力体制が充実しており、健康管理についての支援に止まらず、災害時の連携についても緊密に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員をグループ分けして、現状を振り返りながら自己評価を実施している。管理者がまとめたものを、最終的に職員全員で確認している。職員会議や運営推進会議で話し合いながら、さらなる改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの実情に即した議題について、活発な意見交換がなされている。面会票に“一言欄”を設けるなど、会議で出された提案が運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1回家族会を開催し、ご家族との意見交換がなされている。ご意見箱の設置以外にも、面会票に一言欄を設けるなど、ご家族が意見や要望を出しやすいように工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に関する情報を得て、小学校の運動会など、可能な限り参加を試みている。また、ホーム主催の地域交流会を開設以来続けており、近隣住民や地域包括支援センターの職員、ボランティアの方々に参加していただき、餅つき大会や介護相談会などを行っている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、地域との関わりを大切にすることが、より明確にわかるように表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やホールに理念を掲示し、居心地良く安心して生活していただけるように、具体的な実践に取り組んでいる。		職員全員が理念を共有し深く意識するために、朝礼や会議での唱和など、具体的な取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に関する情報を得て、小学校の運動会などに可能な限り参加を試みている。また、ホーム主催の地域交流会を開設以来続けており、近隣住民や地域包括支援センターの職員、ボランティアの方々に参加していただき、餅つき大会や介護相談会などを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員をグループ分けして、現状を振り返りながら自己評価を実施している。管理者がまとめたものを、最終的に職員全員で確認している。職員会議や運営推進会議で話し合いながら、さらなる改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの実情に即した議題について、活発な意見交換がなされている。面会票に“一言欄”を設けるなど、会議で出された提案が運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携が緊密に行われており、入居希望者の紹介に止まらず、運営についての意見交換や地域住民からの介護相談についても、協力しながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ゆうかり通信を発行しており、行事の状況や日常の暮らしぶりについて、担当者も一言添えてご家族へ報告している。また、ご家族の面会時にも積極的に声掛けを行い、日常生活状況や健康状態等について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し、ご家族との意見交換がなされている。ご意見箱の設置以外にも、面会票に一言欄を設けるなど、ご家族が意見や要望を出しやすいように工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員には教育担当の職員が付き添い、ケアの手順や利用者の特徴、業務の流れなどを一日でも早く習得することで、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人およびホームでの勉強会が毎月実施されており、新入職員については別途研修プログラムがある。外部研修については、参加希望者を募るだけでなく、内容によっては管理者が指名して職員を受講させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームが協力して「よかど会」を結成している。運営上の悩みや問題を話し合うなど、同業者同士の意見交換の場として活かされている。		管理者同士の交流は進んでいるが、今後は相互訪問や合同の勉強会などを通じて職員同士の交流を行い、さらなるサービスの質向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には見学や体験入居を行ってもらい、本人の意思を確認した上で入居していただいている。また、医療機関から直接入居となるケースについては、入院中に管理者が面会に出向き、馴染みの関係づくりを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事や洗濯、掃除など、日常の家事を利用者と職員が一緒に行いながら、昔からの風習や工夫などを教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを取りながら、必要な情報を得るために話を広げるなどの工夫を通して、思いや意向を把握している。把握することが困難な場合は、生活習慣や癖などから思いを推測し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者およびご家族に、どのような生活を望んでいるのか度々聴き取りをした上で計画を作成し、内容を確認していただいている。利用者毎に担当職員が決められており、計画作成担当者に細かい情報や思いが伝わる仕組みができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、目標に対する達成度や今後の方針、利用者やご家族の満足度などが記録されている。基本的には6ヶ月毎に計画を見直しているが、必要時にはその都度検討し、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩やドライブ、買い物など、要望に応じて対応しているほか、定期的にも実施している。医療機関の受診についても、同行や情報提供を行い支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院に隣接しているという安心感から入居を決める利用者が多く、かかりつけ医はホームの運営者でもある同院の院長となっている。緊密な連携により常にご利用者の状態把握がなされ、適切な医療を受けられる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約書にターミナルケアの指針が記されており、入居時に意思確認を行っている。利用者の身体状況や環境変化、本人およびご家族の思い等を考慮して、必要に応じて話し合いを行い、関係者間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないように、コミュニケーションの取り方には特に注意を払っている。記録物の管理については、カルテ等の個人記録類は所定の棚で管理されているが、排泄状況などを記録・確認するチェック表は、目に付きやすい状態で置かれている。	○	業務の流れを考慮した上で、個人の排泄状況などが容易に目に付かないように、望ましい方法を検討していただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、利用者の体調や気分によって、食事や起床・就寝時間を変更するなどして柔軟に対応している。皆と一緒に外出できなかった利用者に対しては、お土産を買ってきたりして楽しみを共有できるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたり、ご近所からいただいた食材や菜園から収穫した野菜などを見て、その日のメニューを決めている。定期的に外出に出かけたり、天井やにぎり寿司などの出前をとって食事を楽しんでいる。また、同一法人の職員が来訪して、一緒に食卓を囲むこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも週2回は入浴できるように、利用者への声掛けを行っている。本人の希望があれば、予定していない場合でも可能な限り対応している。入浴拒否の見られる方に対しては、時間や人を変えて声掛けしたり、仲の良い利用者に誘ってもらうなど、工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや気持ちに応じて、家事作業を役割分担しながら職員と一緒にやっている。定期的な外出や出前、野菜の収穫や菜園の草むしりなど、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はウッドデッキで食事して、外気に触れる機会を多く持つように努めている。外出は制限することなく、希望に応じて随時出かけられるように対応している。ドライブなど、遠出する機会も設けており、全利用者の希望に応じられるように、前もって行き先の希望を聞いておき、順番に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。外出されそうな場合には、さりげなく同行するように努めている。常に利用者の居場所については確認を行っているが、一人で外出された場合には、隣接する関連事業所などの協力により連絡が入るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、同一法人の事業所とともに、夜間想定も含めての防災訓練を実施しており、特に隣接する医院の当番看護師とは夜間も連携が可能である。また、非常食の準備や設備の点検も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分摂取量の確認と排泄チェックを行い、必要に応じてかかりつけ医の指示を仰いでいる。水分摂取量は、1日1300mlを目安とし、随時職員間で申し送りもなされている。献立については、法人の管理栄養士が月2回チェックしており、専門的な観点から助言や指導を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広さも十分にあるため、日中、利用者の多くはリビングでゆっくりとくつろいで過ごされる。季節に応じた花や置物も飾られており、季節を感じながら居心地よく過ごすことができる。トイレや浴室、廊下には必要に応じて手摺りが設置しており、安全面での配慮が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドやタンス、エアコンや空気清浄器、照明、カーテンなどが設置され、必要に応じて利用者が使い慣れた家具等の持ち込みがなされている。ベッドやタンスの配置についても、利用者の希望に沿って支援している。		